

神奈川県立

精神医療センター

NEWS ニュース

No.3

2016年3月発行



うつ病の
診断を補助する

光トポグラフィー検査が はじまりました！



前回の精神医療センターニュースNo.2においてご案内しました光トポグラフィー検査が、いよいよ2月から始まりました。

うつ病の診断は、主に問診により得られる情報に基づいて行われておりますが、その判断は他の疾患によるうつ状態と判別がつきにくい場合があります。

光トポグラフィー検査はそうした問診による診断に「脳血流の情報」を加えることで、より確かな診断に近づけようとする検査です。

検査は、まず、医師による診察（初診）と必要に応じてCT検査を行います。その結果、光トポグラフィー検査が有効と判断された場合には、専門医による検査が行われ、概ね1ヵ月後に検査結果の説明となります。

検査結果はご紹介頂いた医療機関に送付いたしますので、今後の治療にご活用いただけます。

料金などは次のとおりです。

- 料金：9,000円（このほか初診等費用が5,000円程度かかります。）
- お申し込み：電話による完全予約制
- 受診に必要なもの：現在通院している医療機関からの紹介状

詳しくは当センターのホームページをご覧ください。電話にてお問い合わせください。

ご利用をお待ちしております。

問い合わせ先：福祉医療相談科

Contents

- 光トポグラフィー検査について
- ストレスケア医療の地域連携
- 思春期病棟院内学級のご紹介
- 専門病棟見学会開催報告
- 公開講座開催報告
- 外構工事が完了します

精神医療センター基本理念

私たちは、こころの健康を支え、質の高い精神医療を提供します

● ストレスケア医療の地域連携 ●

ストレスケア病棟では、「顔の見える地域連携」を目指しています。そのために、県内のメンタルクリニックを訪問して、ご紹介いただいた症例について意見交換をしたり、紹介から入院までの過程で改善点があるかどうかを話し合ったりしています。こうした取り組みによって、患者さんの治療や支援に、より包括的な視点が導入され、地域医療の中で当センターの病床をより有効にご活用いただけると考えています。

また、平成28年3月12日(土)には、県内や都内から約50名の精神科医療関係者の参加を得て、第3回精神科医療連携研究会を当センターにおいて開催しました。研究会では、8つの医療機関から計10演題の発表があり、精神科医療における医療連携について活発な議論が交わされました。中でも東京都の精神科医療情報センターにおける“救急患者のトリアージ”の取り組みや神奈川県精神神経科診療所協会の“精神科病院隔離室空床情報の共有化システム”の取り組みは、精神科領域での医療連携を円滑にするものとして画期的でありました。当センターからは、吉池医長がストレスケア医療における地域連携について発表し、中村部長が“地域連携室”の新たな構想について発表しました。平成28年4月から当センター内に新たに設置される“地域連携室”は、多職種から構成されるタスクフォースであり、患者支援を軸として当センターの有効利用を促進する取り組みとなっていくことが期待されています。



第3回精神科医療連携研究会

● 思春期病棟院内学級のご紹介 ●

思春期病棟にある県立横浜南養護学校芹が谷学級には中学1年から3年までの生徒たちが在籍しています。今年度は4月に3名で始まった芹が谷学級ですが、12月には9名にまで増え、2月現在は7名の生徒が学校生活を送っています。芹が谷学級に常駐している教員は2名ですが、美術や音楽、体育や技術家庭では、県立こども医療センターにある本校の中学部から専門の教員が来て各教科を教えています。始業式や終業式には学部長や教頭も来室します。

授業は基本的に学習室で行います。中学1年～3年までの生徒と一緒に勉強しますが、その内容は一人ひとり違い、学年や前籍校の学習状況に応じた内容を学習しています。体育は病院の体育館（療法棟）において、学級みんなでバドミントンやバスケットボールをして楽しく体を動かしています。また、治療の関係で学習室に登校できない生徒には、ベッドサイドで面会授業をし、話をしたり学習に取り組んだりしています。



学習室

今年度からできた芹が谷学級ですが、本校とも中学生スポーツ大会の見学や文化祭への参加など、たくさんの交流をしています。100名を超す児童生徒が在籍する本校に比べ、人数の少ない芹が谷学級の生徒が、大きな集団の中でいろいろな子どもたちと活動する機会というのは、とても大切なものだと感じています。病院は違いますが治療のために入院し、自分たちと同じように頑張っている友だちの存在は、芹が谷学級の生徒たちにも大きな力になるでしょう。

今後も生徒たちのために病院と学校との連携をさらに強くしていきたいと思っています。

●平成27年度専門病棟見学会を終えて●

今年度は昨年までのストレスケア病棟見学会を拡大し、平成26年12月の新棟移転後にオープンした思春期病棟、せりがや病院から統合した依存症病棟を含めた3つの専門病棟の見学会を開催しました。1回目1月21日(木)は9名、2回目2月18日(木)は15名、3回目3月2日(水)は27名と回を追うごとに大勢の方々にご参加頂きました。ありがとうございました。



病棟説明

参加された皆様からは「とても開放的な雰囲気にビックリしました」「実際に病棟で活躍されている方から、直接説明を受けることができ、とても分かり易かった」「細かい部分まで実際に見ることができ、紹介しやすい」「きれいで設備が整っている印象！病棟ごと注意している点や雰囲気も異なり、どの職種の方も患者さんを大切に思っているのが伝わってきて感動した。今後に生かせる見学会となった」など、大変ご好評を頂き関係者はホッと胸を撫で下ろしました。

各専門病棟の医師や他職種も参加した情報交換会では、「医師を含めた専門職の方々とお話でき大変勉強になった。アルコールの治療をするには本人の明確な意志が必要と思っていたため考え方がガラリとかわった」「思春期病棟では、診断名ではなく、その子が困っていることから介入の切り口を探っているというお話が印象的。医師と看護師等でどのようにしていくかコンセンサスを得ると聞き、本当にそこが重要だと思った」等の意見を頂き、施設見学だけに留まらず、当センターが大切にしている治療者としての姿勢についても語り合い、大変有意義な時間を過ごすことができました。

次年度も引き続き、関係機関の皆様と共に、患者さんのこころの健康を支えていきたいと思えます。是非また、大勢の方々に見学会にお出で頂けるよう年間を通した見学会をご案内していきますので今後どうぞよろしくをお願いします。



情報交換会

● 平成27年度精神医療センター公開講座 ●

止められない人たちと依存症

～ネット、ドラッグ、アルコール、ギャンブル etc～を開催しました

当センターでは、国の「依存症治療拠点機関設置運営事業」に基づき平成26年10月に神奈川県から依存症治療拠点機関としての指定を受け、依存症対策を進めているところです。その事業の一環として、インターネット、薬物、アルコール、ギャンブルなど様々な依存症について、県民の皆様理解を深めていただくための講演会を3月5日(土)にワールドポーターズで開催しました。当日は、第1部として依存症治療に深く関わってこられた横浜市立大学附属病院の青山久美先生をお招きし、依存症患者さんへの支援についてご講演いただきました。また、第2部として患者さんを支援している方々によるパネルディスカッションを開催し、依存症が身近な病気であること、どのような治療・支援が必要なのかなどをお話いただきました。参加者は132名で皆さん、熱心にお話しに聞き入っていました。

〔パネリストの皆さん〕

- 川崎ダルク 施設長 岡崎重人 氏
- 神奈川県断酒連合会 川崎断酒新生会 金森忠一 氏
- あざみ野ファミリー 12ステップ
リカバリーパレード「回復の祭典」実行委員 佐藤しのぶ 氏
- (独) 国立病院機構久里浜医療センター 心理療法士 三原聡子 氏



青山先生による講演



パネルディスカッション

外構工事が完成します



多目的広場

平成22年度から進めてきた精神医療センターの総合整備がこの3月、外構工事の完成をもってほぼ完成します。関係者の皆様には工事のご理解、ご協力についてあらためてお礼申し上げます。一昨年8月の新病院建物完成後、周辺環境の整備については、10月から旧芹香病院の建物の除却工事が始まりました。昨年7月に着手した外構工事においては、来院者用の駐車場をはじめとして患者さん用の療法庭、災害時の一時避難場所や患者さんの運動、散歩などにも利用できる多目的広場などを整備しています。また、新病院整備により失われた緑を復活させるよう、緑豊かな芹が谷地区の周辺環境と連続性をもたせた景観形成や、来院される方々の憩いとなるような安全で安らぎのある空間づくり、プライバシーを確保した開放性と快適性をコンセプトに植栽空間を整備してきました。サクラ、ウメ、ヒメシャラなど四季折々に花開く樹木やサツキ、シラカシなど一年を通じて緑をたやさない樹木を植栽しています。総合整備は平成28年度に院内保育施設の整備を行い完成します。



駐車場